（社）兵庫みどり公社の経営状況について

１　現　状

(1)　設立

昭和３７年３月３１日

(2)　経営面積（１９，４１７ｈａ）

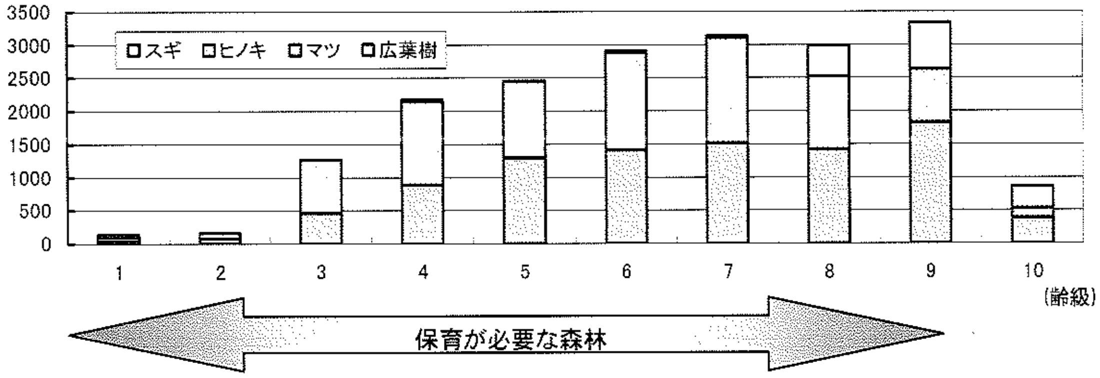
①　樹種別

スギが４８％、ヒノキが４４％　　（単位：ｈａ）

区　分	ス　ギ	ヒノキ	マ　ツ	広葉樹	計
面　積	9,330	8,462	1,593	32	19,417
比　率	48.1%	43.6%	8.1%	0.2%	100.0%

②　林齢別

- 保育の必要な４５年生以下の森林が９６％
- 今後も継続した保育管理が必要である。
- Ｈ３５年度から本格的な皆伐が始まり、Ｈ５４年度がピークとなる。



２　財務状況（借入金残高：H19.3末現在）

- ５４３億円の借入額のうち、市中金融機関が５５％を占める。《全国最多》
- 市中金融機関からの新規長期借入は、Ｈ１９以降不可能となっている。
- 公庫、市中の元利約定償還財源は、県が貸し付けている。

借入先	金額（百万円）		平均年利（最低～最高）	借入期間
県	11,289	20.8%	無利子	
日本政策金融公庫	12,915	23.8%	1.85%(無利子～3.3%)	30～55年
市　中	30,140	55.4%	1.75%(1.21～2.025%)	9年
計	54,344	100.0%		

3　経営改善に向けた取組

木材価格の低迷や伐採・搬出にかかる人件費の高騰等の社会経済情勢の変化により、経営状況が悪化の一途をたどる中で、経営改善計画（Ｈ１２～２０年度：Ｈ１６年度見直し）を策定し、経営改善の取り組みを進めてきた。

《具体的内容》
施業転換資金の活用、技術員退職不補充、事務費削減、枝打の見直し等

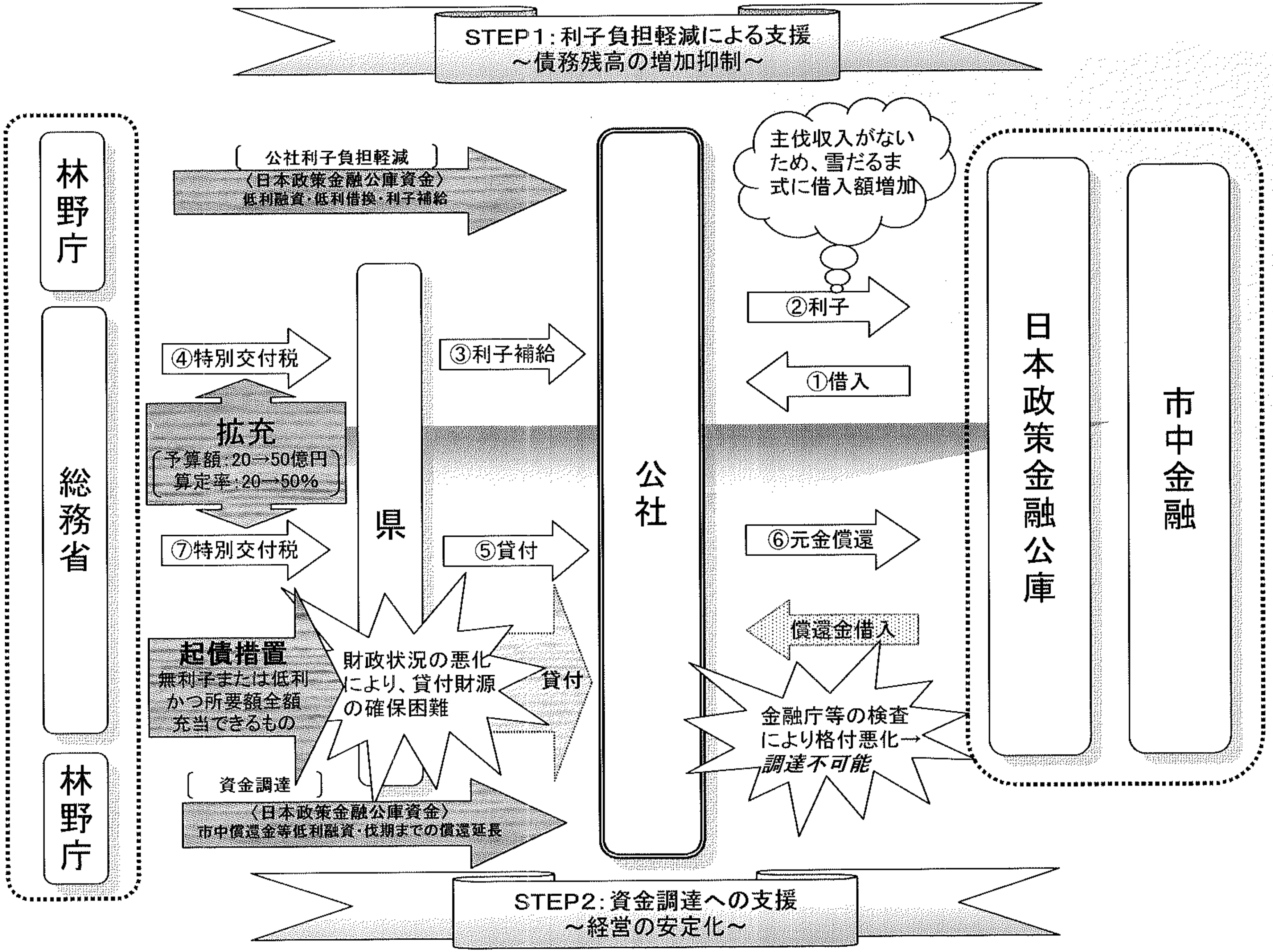
さらに、追加対策として、県の支援と公社により次の改善に取り組んでいる。

《具体的内容》
【 県 】１００億円の無利子貸付〈市中・公庫の繰上償還財源〉
【公社】分収割合の変更（６：４→８：２）※契約者の５７％が変更に同意済

しかしながら、市中金融機関の貸し渋りや金利上昇により、上記の経営改善を図っても長期収支（現行契約終了期間〈～Ｈ９０〉までの収支）は、大幅な赤字が見込まれることから、林業公社を含む県全体の「行財政構造改革推進方策」を策定し、本年１０月に県議会で議決された。

今後は、推進方策に基づき新たな経営改善計画を策定し、着実に経営改善を図ることとしている。

行財政構造改革推進方策の概要《林業公社にかかる部分のみ》

施業方法の見直し	〔現　行〕皆伐・再造林 〔見直後〕森林の状況に応じて、経済性と公益性に配慮して３区分化 **経済林**（皆伐→再造林）**環境林**（択伐→広葉樹林化）**自然林**（高齢林化）
公　社 自助努力	○組織・人員の見直し（1部2課減、ﾌﾟﾛﾊﾟｰ職員退職不補充、県派遣職員削減） ○管理経費の削減 （臨時職員の削減、給与削減、事務所建替計画取りやめ等）
県支援	造林補助金や日本政策金融公庫で調達可能な資金以外の市中・公庫元利償還金や管理費等、毎年度不足する資金について、**県が全て貸付**
国支援	○**地財措置の拡充**（県貸付金を適債化、特別交付税措置の拡充） ○**低利融資制度の創設**（伐期までの償還延長、低利融資、借換制度の創設） ○**造林事業の拡充**（小面積皆伐 3ha の補助対象化、補助率アップ）

国・県による既往債務の抜本的対策